

1999.7月12日(月) AM2:25 第3子 女児 3290g

(4.5才)(男.4才)

第1子・第2子に続いで、康乃先生にお世話をなるのも3度目になります。体調が悪いうじ、もしやと思ひながら、まず病院に行つてみようと検査を受けやはり妊娠との事。

「高齢出産に在るの? 羊水検査をしますか?」とか、「予定日は決まりました? 2週間後に必ず来て下さい」とか、事務的な対応に体も気持ちもよくなれば、妊娠の喜びも感じられます。その後も、なぜかこれまでの「疲労がたまつて」「マタニティドールとの戦いでしたか?」などと予定日にさしつけを思つて。

第1子・第2子ともに、予定日より早い出産でしたので、今回も早いほうと、(10日も前)から、いまが「まだ」と陣痛をまついたのですか。

予定日(7/6)を過ぎても、少しうらき動きがありません。2日後の朝、おしるしありしきものがあるのですが、痛みが止ません。~~■■■~~翌日の朝方から~~■■■~~ようやく陣痛がおき、康乃先生に電話をし、内診にていたくと、予宮が2cmくらいしか開いていませんでした。家に帰ってまづいに方かへりとう事。

今回の出産は、子供たちの立ち合いたを望んでいたのです。かたづけも~~■■■~~下さないでいる。「まだでなければ」と毎日樂にいります。でもまだ生まれるよ~~■■■~~の行李を貸りて、家にモロリ~~■■■~~クロゴロ~~■■■~~していると、夜中、12時を過ぎて以後から痛みが強くなり、康乃先生に電話をし、家へ来ただすが、まだまだ産まれていなくて3cm!!……

その晩は、泊めていた三日、翌朝、「4cmに開いています」食事にはお産に付ると思つよ~~■■■~~の言葉に、ふと安心したのですが、微弱に剥れだし、腹にはお産はまだ無理~~■■■~~帰路の方へ~~■■■~~3kmへなれ……。

散歩に帰ろうと、川原に出てみると夕べの雨のせいか、梅雨のあれた風が吹きました。

「今度は車の中で産む確信が来なかね」と夫に宣言。まだ家路へ…洗たくをして、かたづけたり、散歩したりと少しこの体を動かして、腹に付りやはり痛い…11時半…もうダメだと思つて康乃先生に電話…子供たちを車にのせ、今度こそ産まれて山とお中を走りながら向う…
「全開~~■■■~~はいかないけど、お産に付りますよ」…それから2時間、康乃先生は腰をはずして下りました。先生は「そんなに力をいれちゃダメ」と声をかけて下りました。まるで高いところのような安心感で分娩にのぞみました。

羊水破裂後、がまんできなくなり、いままで虹明のみたまにすんと、おりた感じがし、もう一度強くはまると、赤ちゃんが出てきた感じが…言葉にならば!! 安堵感、いつもありました。

No.

Date

残念ながら、子供たちとの立ち会い出産ではできませんでしたが、満足のいく出産ができ自分にも自信がつきました。

私たち夫婦は、子供たちに産まれた時の様子をよく語っています。

△Yの緑を手で見上げて時のこと。オキラオキラとはじめて立った時や声…

赤ちゃんは、産まれはじめはまだ空気を肺へ貯めないので残りあとあと川音が3人の子供たちの肺の中には、中島助産院の空気が残るといったことを聞こえます。

今月もまた感謝の気持ちでいっぱいです。

無事、元気な産まれ立派な赤ちゃん…「おかえりながっばれー」と指中を立てる赤ちゃん子供たち…3日間、育児は24時間365日「ウー・ルー」との声で、忙しく、また一緒にいてくれ、はげましてくれた夫…おじいちゃん…おじいちゃん…赤ちゃんのお話を聞くのがいいこと。生命の事、地図の事、いろいろな事を教えてくれます。入院して3ヶ月、ハーネスをつけていたところ、元気いい子になりました。

本当にありがとうございました。

7月16日(金)

渡部